

# 書評

慶應義塾大学  
理工学部 教授  
枇々木 規雄

## 「ファイナンシャル・ライフ・エンジニアリング—したたかに“楽しむ”!洗練された「人生の経営者」を目指して」

- 著者：井戸 照喜
- 発行所：金融財政事情研究会
- A 5判・272ページ(本体2800円+税)



2024年1月から新NISA制度が始まり、資産運用立国を目指して「貯蓄から資産形成」が動き始めた。日本の家計の金融資産に含まれる株式等・投資信託の構成割合は2024年3月末において19.6%と、前年比で4.2%増え(預金は3.3%減少)、その効果が表れてきた。一方で、国民が正しい判断をしながらかれらを継続していくには、金融リテラシーの向上が必須である。しかし、学校教育では、ようやく2022年4月から高校家庭科で金融経済教育の授業が本格的に始まったというのが現状である。

そのような中、「投資そのもの」だけにフォーカスを当てるのではなく、本書は一貫して「マネープランとしての投資」という視点から、個人が実践できる考え方や手法についてケーススタディも交えて、体系的に分かりやすく伝えてくれている。

第1章では、ファイナンシャル・ウェルビーイングの向上には金融経済教育が必要であることを、さまざまなデータを通じて示し、その重要性を明らかにしている。第2章では、ヒト(人

的資本)、モノ(物理的資産)、お金(金融資産)に関する「資産形成」を通じて、本のタイトルでもある「ファイナンシャル・ライフ・エンジニアリング」の全体像を概観している。

第3章から第5章にわたって、「マネープランとしての投資」に重要な考え方と手法について詳説している。第3章では、投資のタイプとして「プロフェッショナルとして」「趣味として」「マネープランとして」の投資を取り上げ、年金運用で活用されているプロフェッショナルな資産運用の発想が個人投資家のマネープランとしての投資にも活用できることを具体的に説明している。長期投資、(資産への)分散投資に加えて、タイミング投資の分散の考え方についても数式で分かりやすく説明している。

第4章では、マネープラン(積立計画・取崩計画)のための技法を取り上げ、予定利率と期間に関する計算法則である72の法則(一括投資)、126の法則(積立投資)の利用や、計画の「見える化」を実践する策定ツールも紹介

している。この策定ツール(PPPツール)は、読者への購入特典としてダウンロードすることができる。パラメータをいろいろと変えることによって、運用の有無による影響を手軽にシミュレーションでき、より具体的にイメージできるので、理解を深めるために、ぜひ活用していただきたい。

第5章では、リスク許容度の考え方を再考し、マネープランとしての投資におけるリスクとして、運用リスクと計画通りにはならないリスクを取り上げ、年金ALMの考え方を個人に応用した技法を具体的な計算例と併せて説明している。本章は年金数理人である著者ならではの知見を基に、興味深い視点を与えてくれる。

第6章では、各世代で直面しそうな疑問をケーススタディとして扱っている。答えは一つではないが、どのように考えることができるのか、第5章までで取り扱った内容とも関連して回答してくれており、自分ごととして総合的に考える指針を与えてくれる。終章では、今までの内容を踏まえ、今後の方向性を与えてくれる。

途中に挿入されている「コラム」と「コーヒーズブレイク」では、本文に関連した著者ご自身のエピソードや経験に基づく考え方、素朴な疑問に対する話がちりばめられており、それも本書の楽しみの一つになっている。

パーソナルファイナンスに関する専門書や金融リテラシーに関する知識を解説する書籍はあるが、本書はそれをつなぐ、中間的な位置付けにあると考えてよいだろう。随所に数式による説明も含めて、今までの書籍にはない内容が多くちりばめられている。ファイナンシャル・プランナーをはじめ、多くの人にとって投資に対して新たな視点で知識をブラッシュアップするのに役立つだろう。

本誌収録の読者アンケート(70ページ)にお答えをいただいた方の中から、抽選で5名様に上記書籍を贈呈致します。ご希望の方はプレゼント希望欄に○印をご記入の上、ご応募ください。なお、応募期日は2025年1月9日(必着)とし、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。